

# 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2018年3月1日  
第6号（通算第12号）  
教育指導課教育課程係

## 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり研修会

### ■ 仙台市立南光台中学校（授業研究）

2月27日（火）、仙台市立南光台中学校（遠藤裕子 校長先生）を会場に、数学科と国語科の授業研究会を行いました。今年度最後となる今回の研修会には、他校の先生方も参加し「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりについて研修を行いました。

#### 【1年数学 資料の分析と活用】



星 早矢香先生が「度数の分布」を題材に授業を行いました。本時では相対度数から二つの資料の傾向を読み取り、比較し考察すること、求めた相対度数を度数折れ線で表すことの二つを目標とし、ワークシートの活用やグループ活動を通じて、数学的な見方・考え方を働かせながら、根拠を明確に示して結果を説明するというねらいに迫りました。仙台市教育センター 木村昌宏指導主事からは、次のような指導助言がありました。

- 新学習指導要領では「データの活用」の指導に関して、「相対度数などの必要性と意味を理解すること」と示されている。本時の場合、度数の違いに着目させて、大きさの異なる二つ以上の集団のデータの傾向を比較する際に、度数分布表で単純に比べることができないことに気付かせながら、必要性や意味の理解に結び付ける必要がある。相対度数以外の比較方法にも気付かせるような、思考の広がりも大切である。
- 知識や技能中心の指導内容でも、読み取りや比較の場面で、深い学びにつなげる指導の工夫が可能である。

#### 【2年国語 話し合って考えを広げよう】

田村 有佑貴先生が、「目的に沿って話し合い、互いの発言を比較して自らの考えを広げる」ことをねらいとして「仕事のパートナーを選ぶなら誰か」をテーマに、生徒によるパネルディスカッションを取り入れた授業を行いました。仙台市立広瀬中学校 主幹教諭 堀部登美子先生からは、次のような指導助言がありました。

- ただ話し合わせるものが対話的な学びではない。授業を通して「何ができるようになるか」が重要である。生徒の実態を踏まえ、生徒に身に付させたい力を明確にし、授業後の生徒の姿をイメージして、話し合わせるものが大切である。
- 国語科においては、「言葉による見方・考え方を働かせる」ことが重要である。比較・検討し、根拠を持って筋道に沿って話し合わせる工夫が必要である。



#### 平成28～29年度「アクティブ・ラーニング普及支援事業」について

仙台市教育委員会では、市内小・中学校の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するため、各行政区に設定した「拠点校」における、研修会や研究授業の公開等を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図ってまいりました。これまで推進役として、自校の成果や知見を他校へ提供いただいた拠点校の校長先生はじめ先生方に感謝申し上げます。

この事業により実施した研修会、授業研究会には、のべ、約1400名の参加者がありました。引き続き、市内小・中学校において、三つの柱として整理された資質・能力の育成に向け、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善に積極的に取り組まれることを期待しております。

なお、研修会や授業研究会の取組をまとめた本紙（1号から12号）は、仙台市教育センターホームページにて閲覧、ダウンロードが可能となっておりますので、是非、各校で活用してください。